

TRUSCO
PRO TOOL

Skilled professionals need professionally qualified tools.
This line of products brings manufacturers all the advantages of
using excellent equipment,
and will satisfy each and every user in the workplace.

®

Automatic Tube Cutter

ラチェットチューブカッター(自動送り機能付き)

この度は **TRUSCO**® ラチェットチューブカッター(自動送り機能付き)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用の前に、このご使用方法をよくお読みになり、正しくお使いください。

また、お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお読みください。

ご使用方法

特長

- ラチェット機構の採用で狭い場所でも楽に、早く切断することが可能です。
- スプリングによる自動送り機構と専用薄刃で、きれいな切断面に仕上がります。
- 刃は自動送り機構で一定の送り量(力)を保つので、無理な力がかかりません。
- ハンドルは長時間の使用でも疲れにくい軽量設計です。

チューブカッターの使用方法

●自動送りによる切断

1. チューブに刃が軽く接触するまで、ノブを回してください。なお、チューブの先端はローラーの幅以上の長さが本体より出るようにして、ローラーのセンサー部にセットしてください。
 2. 軟質管の場合、先端線が「SOFT」の「I」印に合うまでハンドルを右に回します。硬質管の場合、先端線が「HARD」の「I」印に合うまでハンドルを右に回します。「SOFT」「HARD」の「I」印は目安のため、管の質や状態により、適宜、締め付けを調整してください。
 3. 切断されるまで、本体を回転させてください。
- ※○管(なまし銅管)の材質(軟度)によっては基準位置でつぶれる場合がありますので、その際はハンドルの送りを調整してください。
4. 回転させても切断しない場合は、ハンドルの右送りと回転を繰り返してください。



●手動送りによる切断 (一般的な切断方法)

1. チューブに刃が軽く接触するまで、ノブを回してください。なお、チューブの先端はローラーの幅以上の長さが本体より出るようにして、ローラーのセンサー部にセットしてください。
2. ノブを回し、チューブをつぶしてしまわずに少し切込みを入れ、本体を約1/4～1/2回転程度、数回前後に回転させ切込み跡をつけた後、本体を一回転させます。全周に付いた切込み跡が螺旋状にならず、一本の線(輪)になっていることを確認した上で徐々に切込みを深くしながら切断してください。
3. 切込み深さや回転速さを適宜に調節することにより、切口の変形も少なく美しくなり、また、カッターホイールを長持ちさせることになります。

ハンドルへの取り付け方



- 写真のように、固定部分と可動部分の開口部を揃え、ハンドルに描かれた矢印の方向にチューブカッターを挿入します。
- 挿入したのとは逆の側から、奥まで正しく入っているか、必ずご確認ください。

●替刃(カッターホイール)の交換

支持ピンを抜き取り、カッターホイールを取外してください。

組立ては、それぞれ取外しの逆の手順で行ってください。

刃を交換する際は、下記の専用替刃をご使用ください。

替刃 (品番)	切断可能な配管の種類・肉厚(mm)					材質	仕上
	銅	アルミ	真鍮	硬質塩ビ	薄肉ステンレス鋼		
GFC-15NC	3	3	3	3	切断不可	軸受鋼(SUJ2)	クロムメッキ
GFC-15NT	3	3	3	3	1	ハイス鋼(SKH51)	チタンコーティング

⚠ 使用上のご注意

- 用途以外には使用しないでください。誤った使用は本品の破損や、事故の原因となりますので使用しないでください。
- 本品の使用前には必ず各部の点検をし、異常がないかを確認し、異常があれば使用を中止し修理または交換してください。
- 溝付け深さを一度に深く入れすぎますと、抵抗が大きくなりローラーベアリングの回転不良や破損の原因となります。
- カッターホイールは、パイプに直角に当て、こじったり、ねじったりしないでください。また、ローラー部には時々注油をし、メンテナンスを行ってください。
- 本品に衝撃を与えたり、改造をしないでください。
- 切断作業中、刃物部には手を触れないでください。刃と管の間に指を挟むなど、事故やけがの原因になります。
- チューブカッターに水やフラックスが付着した場合は必ず拭き取ってください。
- 切断したパイプの切り口は、鋭利になっています。手指などを損傷する危険性がありますので、直接、手指等で触れないでください。